

**11月23日(土)、再開発に伴い解体工事中の東急百貨店東横店東館・中央館を使い、  
東京消防庁と協力して、総合震災消防訓練を行います。**

東京消防庁  
東京急行電鉄株式会社

2013年11月23日(土)、東京急行電鉄株式会社(以下、東急電鉄)は、東京消防庁主催の総合震災消防訓練(以下、本訓練)に対して、渋谷駅周辺の再開発に伴い解体工事を進めている東急百貨店東横店東館・中央館を訓練場所として提供するなど、さまざまな協力を行います。

本訓練は、11月23日(土)6:00に東京湾北部を震源とするマグニチュード7.3の首都直下地震が発生し、東急百貨店東横店東館・中央館の解体作業員が、がれきの下敷きになるという想定で行います。解体作業現場を管理する東急電鉄が、東京消防庁と警視庁が共同で行う救助活動に対して、災害現状の説明を行うなど、円滑な救助活動をサポートします。解体作業現場から救助された作業員は、ハチ公広場に設置される仮設の救護所に搬送されます。

本訓練は、渋谷駅という都心の一等地で行われ、かつ解体工事中の現場を使って行う点で、過去に例がない取り組みです。また、傷病者の重症度と緊急度で分別し、治療や搬送先の順位を決定する災害医療に基づくトリアージを実施するほか、実際の解体作業で生じたがれき等を使用するなど、本格的な訓練内容になっています。

#### **本訓練の概要**

実施日時:2013年11月23日(土) 7:30~9:00ごろ(予定)

実施場所:東急百貨店東横店東館・中央館の解体工事現場、渋谷駅ハチ公前広場

実施内容:6:00に東京湾北部を震源とするマグニチュード7.3の首都直下地震が発生。  
解体工事現場でがれきに生き埋めになっている作業員を救出し、救急搬送する

主催:東京消防庁

特別協力:東京急行電鉄株式会社

協力:イツ・コミュニケーションズ株式会社、株式会社 東急百貨店

東急電鉄は、解体工事中の東急百貨店東横店東館・中央館を訓練の場所として提供するだけでなく、救助活動の参加・補助を行うほか、当日の訓練の様子を、渋谷駅ハチ公口交差点前の「QFRONT(キューフロント)」ビル壁面に設置された大型ビジョン「Q'S EYE(キューズアイ)」で放送するなど、さまざまな場面で本訓練に協力します。東急電鉄はこの訓練を通して、渋谷の街の安全性を高め、渋谷が「日本一訪れたい街」となることを目指します。

以上

## (参考) 渋谷駅周辺における東急電鉄の防災対策

### ■ 渋谷ヒカリエ

2012年4月に開業した「渋谷ヒカリエ」は高度な耐震性能を持ち、耐震グレードでは、大地震でも限定機能が確保でき、病院やコンピュータセンター等に適用されるレベルであるAグレードを保持しています。また、災害時に発生する帰宅困難者を一時的に收容可能なスペースとして約5,500㎡を確保するとともに、館内には約72時間分の予備電源があり、災害時も一部のトイレが使用できるほか、1万3000食の飲料水・食料の備蓄もなされています。



### ■ 駅の安全対策

東急電鉄は、国土交通省の通達にもとづき、災害時の復旧困難性なども考慮して、構造物だけでなく、列車運行に必要な信号設備や電気設備などの耐震補強を順次進めています。

また、帰宅が困難になったお客さま向けの非常食、簡易ブランケット、簡易トイレの備蓄も進めており、2012年に全ての駅で備蓄を完了しました。

飲料水については、大規模地震などの災害発生時にお客さまに飲料を無償で提供できる災害対応飲料自動販売機の設置も進めています。今後、飲料メーカーの協力も得て、2013年度末までを目途に、全線に展開する予定です。

### ■ 震災ハンドブック

東急電鉄は、大規模地震が発生した際、お客さまに落ち着いて行動していただくことを目的に「震災ハンドブック」を無料で発行しています。2012年6月に第一版の配布を開始し、2013年6月には内容を拡大した改訂版を配布しました。

「震災ハンドブック」には、東急線沿線の一時滞在施設や広域避難場所を掲載した一時避難・帰宅支援マップや、応急処置の方法、震災発生時の行動に関する分かりやすいイラスト解説などが掲載されています。



以上